

日本地震工学会
原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会
(耐津波工学委員会)

(7. 津波防御に関する工学の体系化 骨子)

概要： 様々な機能や対応を駆使して巨大津波の影響(外力)を軽減させるための工学的手法を整理し，工法や情報システムなどの提案を行う。まず，既存の技術，施設やシステムなどのレビューを行い，対象エリアに応じた多重防御・深層防御などの考え方を整理する中で，必要な工法やシステム設計手法の提案を行う。

7.1 津波防御に関する技術のレビュー

既存の技術，施設やシステムなどのレビュー(アンケート調査など)

多重防御の機能を有する技術の体系化に向けた機能(防災，耐水，避水など)

7.2 体系化の考え

対象エリア・構造物に対する多重性・多機能を持つ減災・防御の体系化に向けて
多重防御，深層防御，フェールセーフなどの考えの整理

7.3 構造工学、機器工学の検討および提案

多重防御の機能を持つ構造，機器の検討

防水工法、耐水工法、避水工法

浸水からの設備の遮蔽 vs 設備側で対応

7.4 回復力(Resilience)の維持

津波からの影響を受けた後のいち早い復旧・復興について

いち早い復旧を目指した対応(排水，がれき処理，など)

7.5 津波関連情報システムの活用

津波警報などの利用

リアルタイム情報の活用リアルタイム情報の活用による低減効果

地震発生後来襲間でのフェーズ，来襲後から収束までのフェーズ，収束後のフェーズなど